



中長期成長戦略プラン ネクストステージ 50

- ◇ 現況報告
- ◇ 中長期成長戦略プラン
『ネクストステージ50』 概要説明
- ◇ 2013～2017年度 収益目標
- ◇ 2013～2017年度 資金計画

中越パルプ工業株式会社

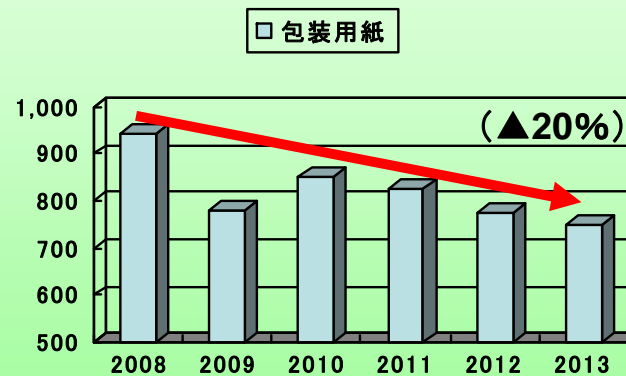
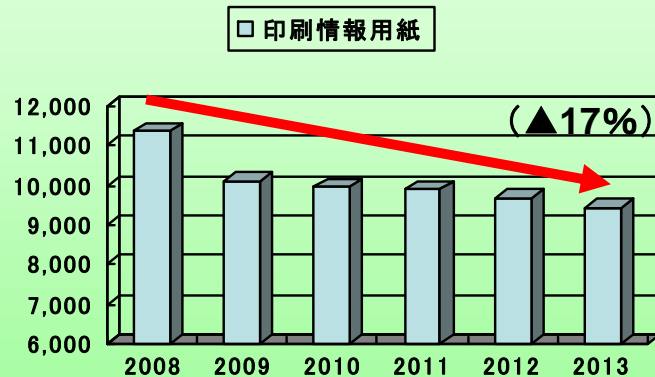
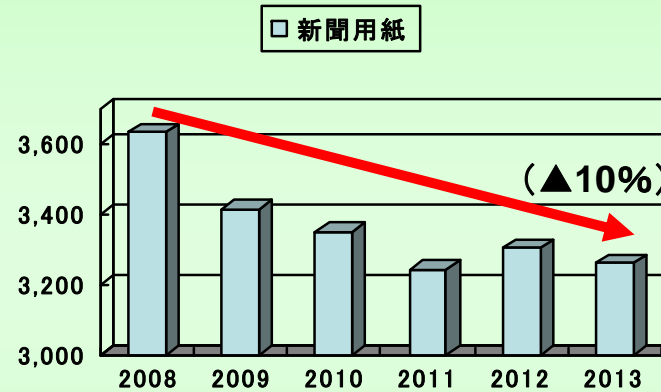
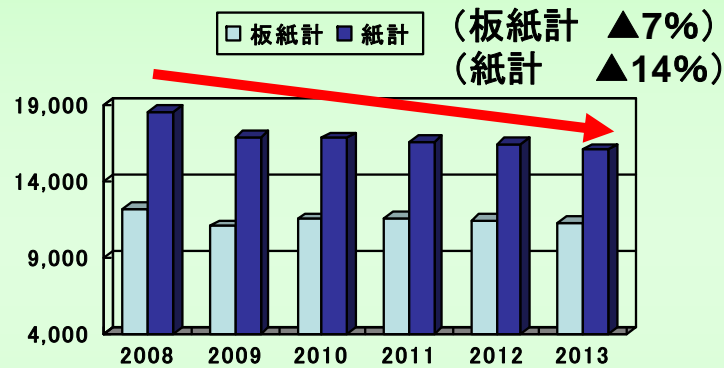
現況報告(1)

リーマンショック時に大幅に落込んだ紙・板紙の内需は、紙離れや少子・高齢化などの影響で、以前の水準に戻る事は期待できない。

◎紙・板紙内需の推移と見通し(日本製紙連合会 紙・板紙内需試算より)

単位:千t

()内は2008年度比

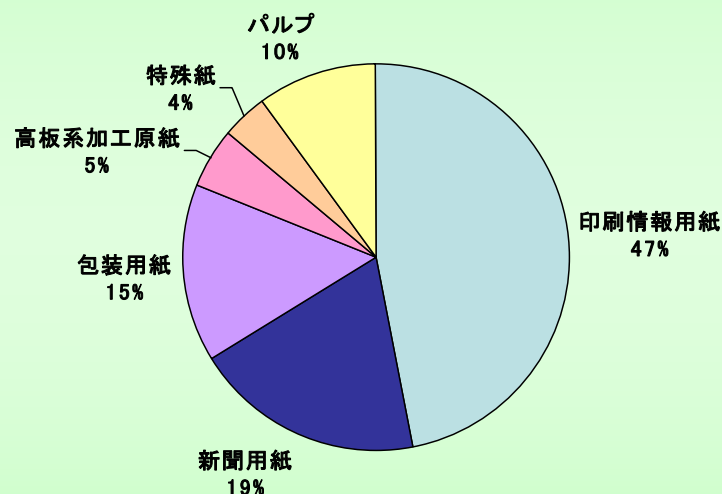


紙の需要は
右肩下がりが続く

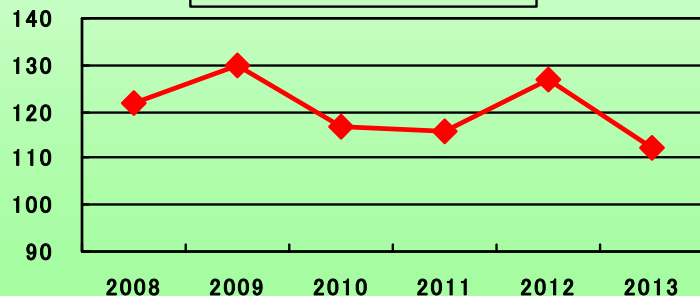
現況報告(2)

印刷情報用紙の生産比率の高い当社は、
 内需の落ち込みと輸入紙の攻勢と定着による市況下落が
 利益の押し下げ要因として非常に大きい。

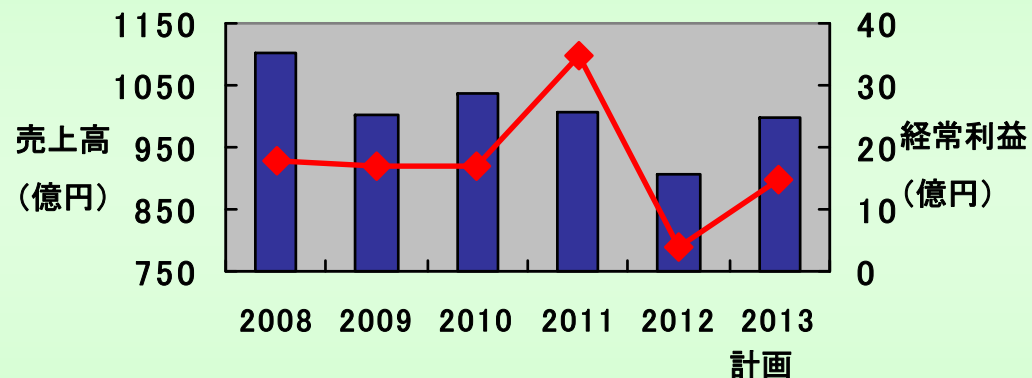
中越パルプ 販売品種割合(数量)



A2コート 日経市況



売上高 経常利益



印刷情報用紙の市況悪化とともに、
 売上高・経常利益が減少傾向にある。



独自性を高め、社会に存在感を示す
 中長期戦略プランを策定する。

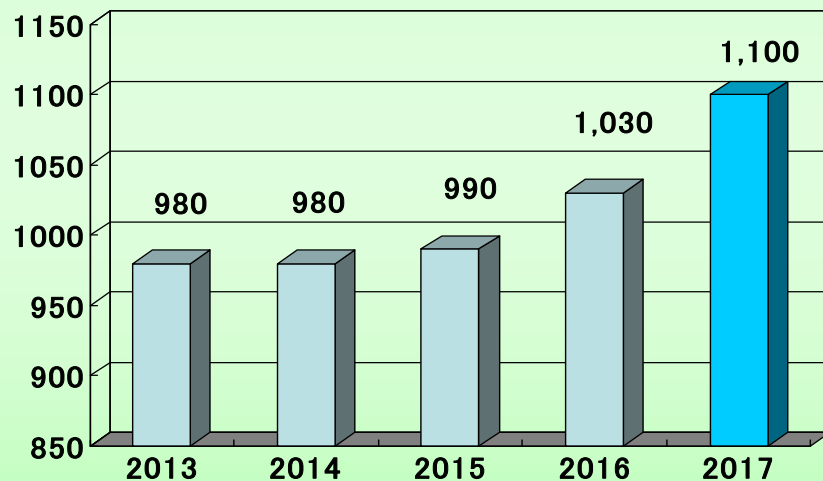
中長期成長戦略プラン 概要(1)

◎ 経営目標

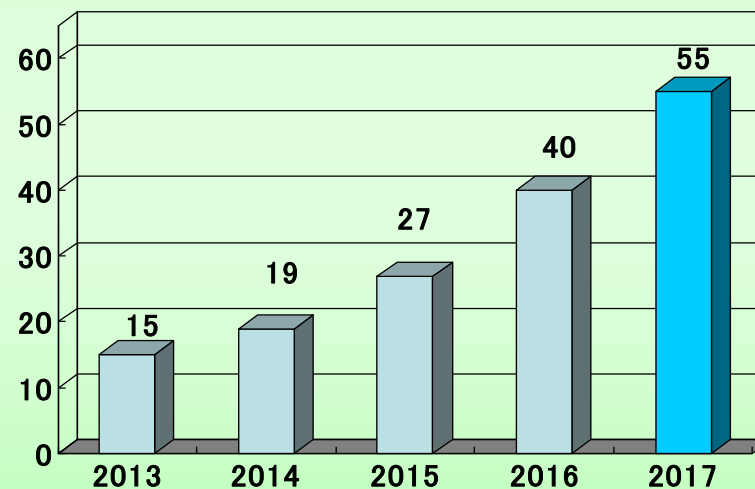
連結売上高 1,100億円、経常利益 55億円を経営目標に設定し、これを達成するべく、中長期成長戦略プランを策定する。

(単位:億円)

◇ 目標 連結売上高



◇ 目標 連結経常利益



売上高経常利益率

1.5%

5.0%

中長期成長戦略プラン 概要(2)

経営目標達成のため、
深化と進化で独自性を高め、存在感を示せる企業を目指し、
中長期成長戦略プランとして、「ネクストステージ50」を実施していく。

◎ ネクストステージ50 概要

① 生產品種の構造転換
(高板系加工原紙、特殊紙分野の強化)

② 包装用紙生産と製袋事業の発展強化

③ エネルギー事業への参入

④ コストダウン

⑤ パルプ高度利用化計画

「ネクストステージ50」は、
5つの項目を柱とする。

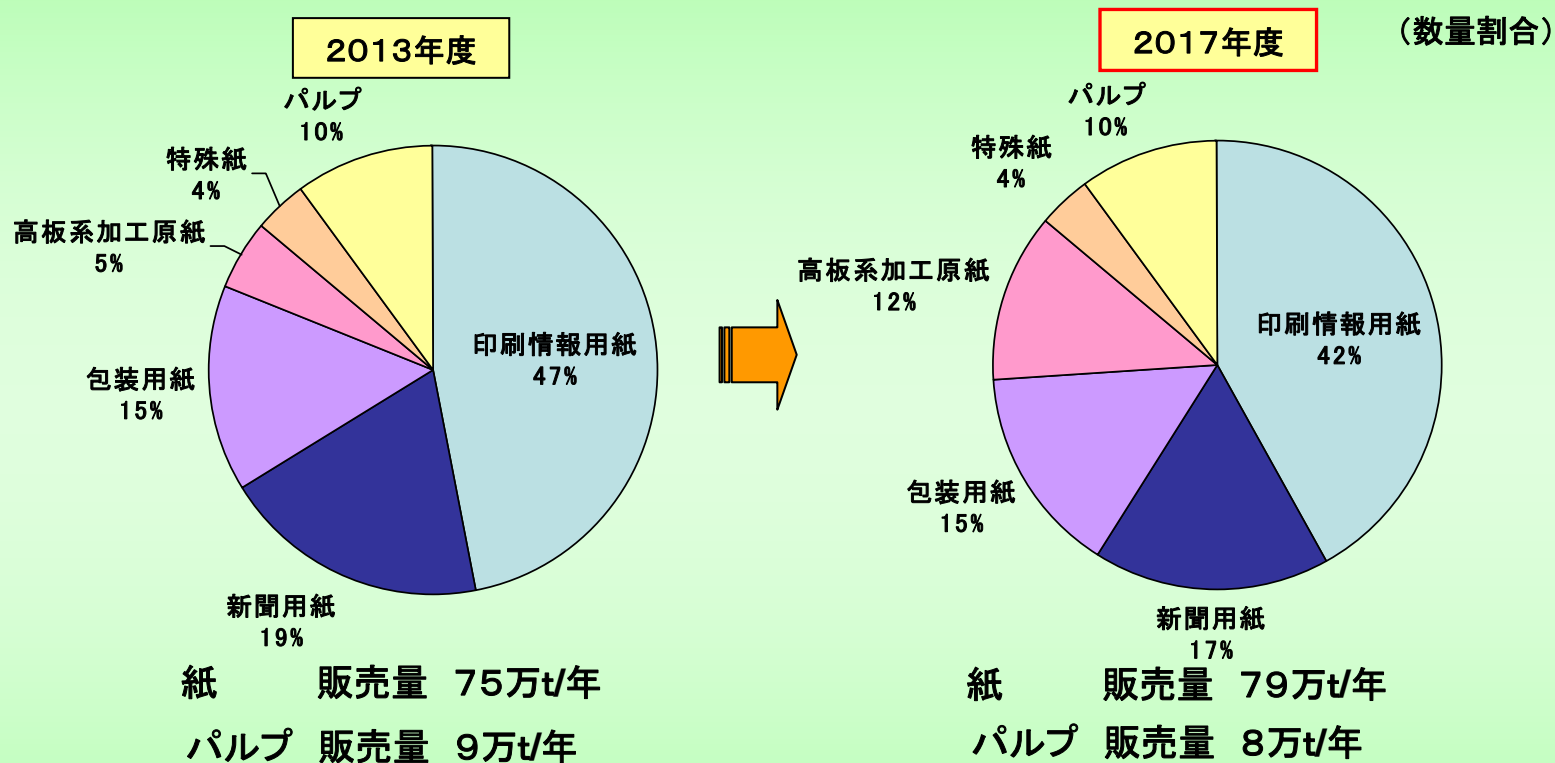
さらに、
社会貢献を通じた
ブランディング強化で、
独自性と存在感を発信し
企業価値を高めることで、
相乗効果を発揮させる。

以上により、2017年度での
経営目標達成を目指す。

① 生產品種の構造転換

◎ 生產品種 構造転換目標

市況の影響を受けにくい体制を整えるため、生產品種の構造転換を推進する。



◇ 高板系加工原紙マシン

→ 既設マシンの更新

◇ 印刷情報用紙マシン

→ 生產品種の転換、抄紙機台数の削減による生産性向上

① 生産品種の構造転換 「高板系加工原紙分野の強化」(1)

食品容器用途の加工原紙の販売は、
底固い需要に支えられ堅調に推移している。
今後も、プラスチック容器から紙容器への転換は進むと予想される。

◎ 当社の強みと取組み

これまで積上げた生産技術で販売を伸ばし、
存在感を高めてきている。

今年度 加工原紙販売量(計画)
15%アップ(2008年度比)

- ◇ 即席麺容器の紙化増加
- ◇ 飲料用カップ、ヨーグルトカップ、アイスカップ、紙皿、紙トレイなど

高級小箱、酒パック、飲料用容器など新規開発を
強力に進め、積極的に新規需要を取込む。

- 高板系加工原紙分野のさらなる成長戦略

新しい抄紙機を導入し、既存の抄紙機を更新する。

① 生産品種の構造転換 「高板系加工原紙分野の強化」(2)

◎ 新設備概要:高板系加工原紙マシン

現状の優れた特徴である加工適性に加え、印刷適性などの高品質と取幅効率、生産効率の向上でコスト競争力を併せ持つ抄紙機に更新する。

また、画期的な衛生面への配慮で食への安全性を担保できる製品づくりを行う。

① 月産能力	約9,000t/月
② 投資額	約200億円
③ 稼働時期	2015年度中
④ 利益	約15億円/年(償却前 約32億円/年)

◎ 販売戦略

「高板系加工原紙 販売促進部門」を新設。

- ◇ 新設備導入と共に、より市場に近い加工分野も含めた事業を推進。
- ◇ 紙化への提案を推進し、新規需要を取込む。
- ◇ 北陸地区での医薬品用途紙への展開で、地産地消を推進。

① 生産品種の構造転換 「特殊紙分野の強化」

◎ 特殊紙分野の強化と印刷情報用紙の販売戦略

印刷情報用紙は、今後も少子・高齢化による内需の落ち込みによる操業度低下で苦戦を強いられる事が予想される。

◇ 独自性を活かした印刷情報用紙の拡販

竹紙、里山物語などに代表される環境対応紙を含め、市況に左右されにくい品種の拡充を図る。
既存マシンの低密度性などの優位性を活かした製品作りを推進する。

◇ 特殊紙分野での存在感を高める

既設抄紙機の余力を活用し、生産品種転換を計画する。
トップシェアを誇る壁紙原紙などの品質向上、生産・物流の効率化を図る。

◇ その他品種の戦略

新聞用紙なども2%/年の内需減を予想しているが、生産地の優位性等を活かす販売戦略を推進する。

② 包装用紙生産と製袋事業の発展強化

包装用紙は業界シェア15%の当社主要品種の一つである。
今後の成長戦略として海外での製袋事業の強化を図り、
原紙生産と製袋加工品の包括的生産販売を行う事で、
アジア圏の旺盛な需要を取込み、原紙販売強化と中越パルプグループの
事業拡大を図る。

◇ 中国/青島 王子製袋との共同出資事業 → 2013年度中の稼働開始

◇ 製袋メーカー中部紙工の株式を取得し子会社化(2013年3月)

中部紙工 ベトナム子会社の第三工場建設(2014年稼働)

新工場建設により生産能力が増加、発展地域の需要を取込み、
需要縮小による国内事業の閉塞感を打破する。

ベトナム子会社 第三工場計画(2018年度)

- | | |
|-------|-------|
| ① 売上高 | 約23億円 |
| ② 利益 | 約2億円 |

③ エネルギー事業への参入(1)

川内工場は、年間を通じて好天に恵まれ、
また未利用間伐材の森林資源が豊富にある南九州に位置し、
この立地条件を活かしたエネルギー事業への参入を推進する。

◇ 木質バイオマス燃料発電事業

これまで森林資源の有効活用を目的に、鹿児島県を中心とした九州中南部地域の間伐材や竹材の集荷拡大を進めてきている。
この強い集荷基盤を活かし、さらなる未利用間伐材の利用促進を図る。

設置場所	: 中越パルプ工業株式会社 川内工場内
発電能力	: 約25,000kW
売電量	: 約154,000MWh/年
売上高	: 約48億円/年
投資額	: 約85億円
使用燃料	: 未利用木材等の木質バイオマス燃料
発電開始時期	: 2015年11月
利益	: 約15億円/年(償却前 約20億円/年)

③ エネルギー事業への参入(2)

◇ 太陽光発電事業

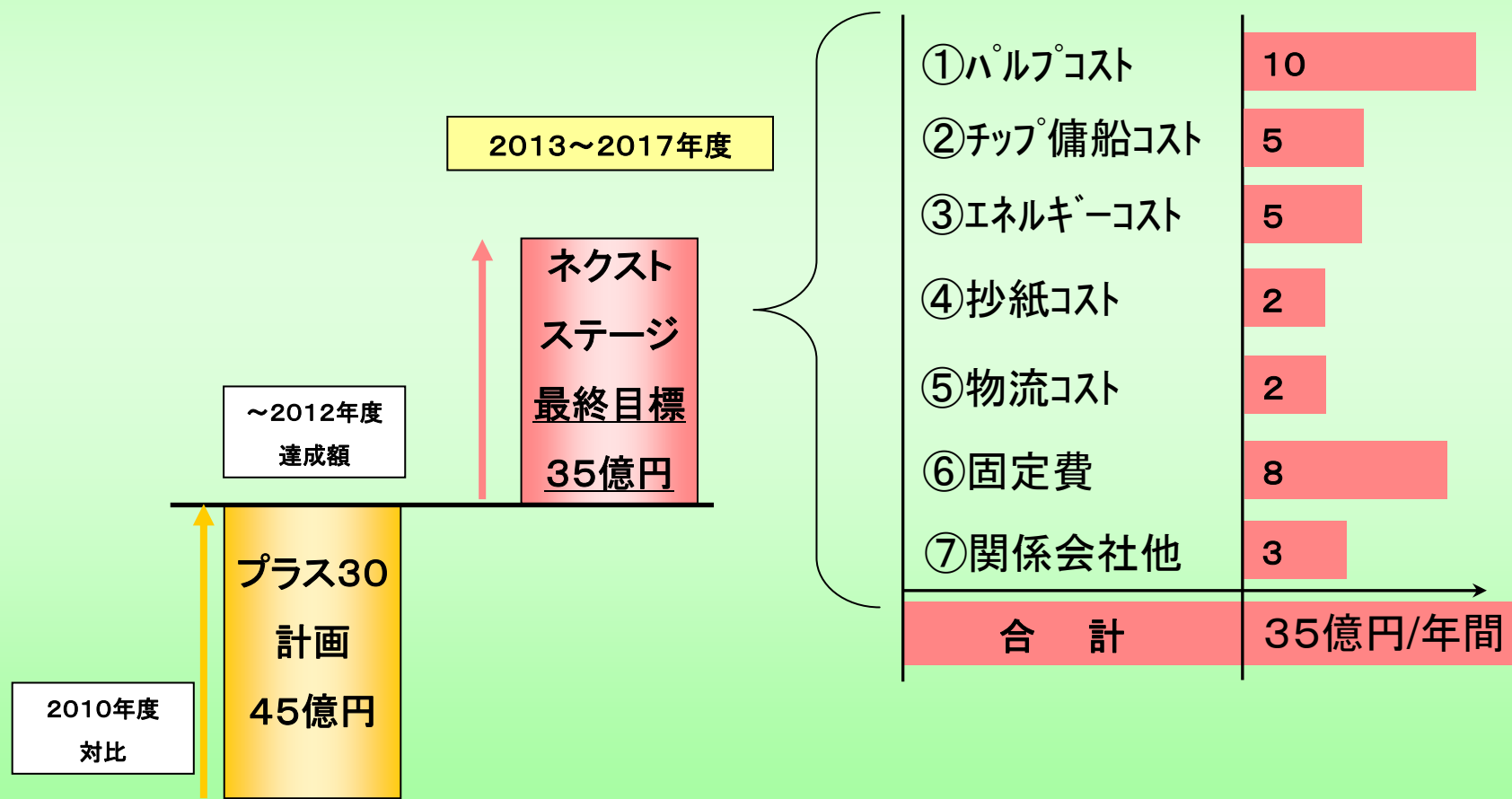
鹿児島県薩摩川内市が進めている「次世代エネルギー導入を通じたまちづくり」の取組みの一環として太陽光発電設備を設置する。
遊休社有地の有効利用を行い、自然エネルギーの有効活用を促進する。

発電所名	: 中越パルプ工業株式会社 唐浜メガソーラー発電所
設置場所	: 鹿児島県薩摩川内市
発電能力	: 1,810kW
売電量	: 約1,900MWh/年
売上高	: 約0.7億円/年
投資額	: 約5億円
発電開始時期	: 2013年8月
利益	: 約0.3億円/年(償却前 約0.6億円/年)

④ コストダウン

2011～2012年度に取組んだ「プラス30計画」で築いた収益基盤をより強固なものとするため、コスト削減の取組みをネクストステージ50の重点項目の一つとして、強力に推進していく。

◇ コスト削減 最終目標額

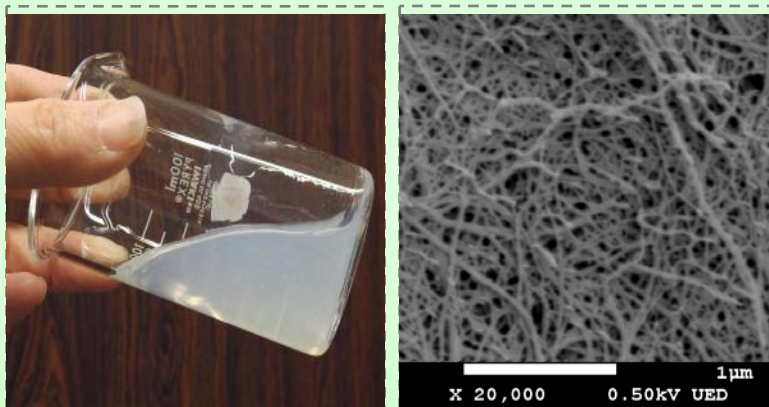


⑤ パルプ高度利用化計画(1)

◎ セルロースナノファイバー(CeNF)の研究開発

- ◇ セルロースナノファイバー(CeNF)とは天然草木類などの植物を形作る骨格となる成分。当社のパルプに高圧処理を施し、細かくほぐすことで得られる。

<CeNF 1%分散液> <CeNFのFE-SEM像>



◇ CeNFの特徴

- ・吸着力 (染料の高吸着により鮮やかな発色)
- ・流動性 (プラスチックの流動性を落とさない)
- ・透明性 (透明な紙・フィルムへの応用も可能)
- ・植物由来 (カーボンニュートラル、持続型資源)

⑤ パルプ高度利用化計画(2)

◇ 研究開発の方針

- ・当社のコア技術の木質パルプに高機能を付与した素材であり、優れた補強用繊維として製品開発を目指す。
- ・各種プラスチックとの複合材料の研究開発。
- ・製紙用の補強剤、表面改質剤としての用途開発。

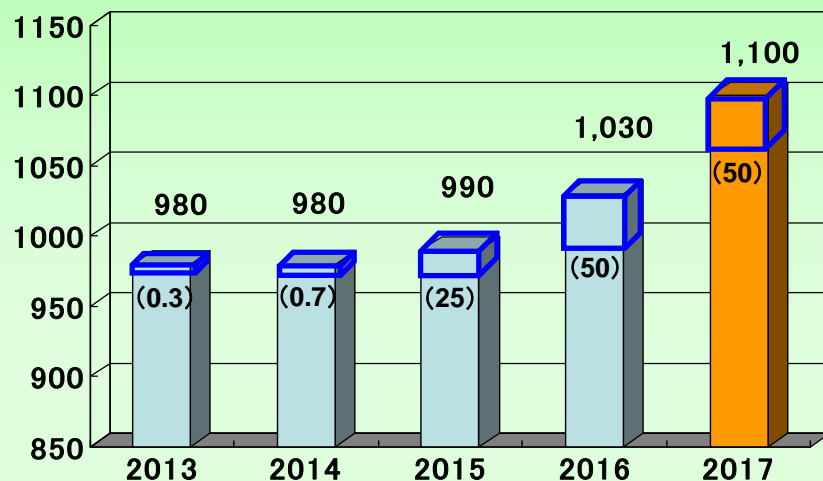
◇ 進捗状況と課題

- ・自社パルプから一貫生産したCeNFサンプル販売を開始した。
- ・事業化へ向けて、品質安定化と製造コストの低減を図る。
- ・各種プラスチックとの相溶性改善のため、外部研究機関との共同研究を進める。
- ・竹パルプから製造したCeNFの研究を進め、利用を促進し、より独自性を高める。

『ネクストステージ50』 収益目標

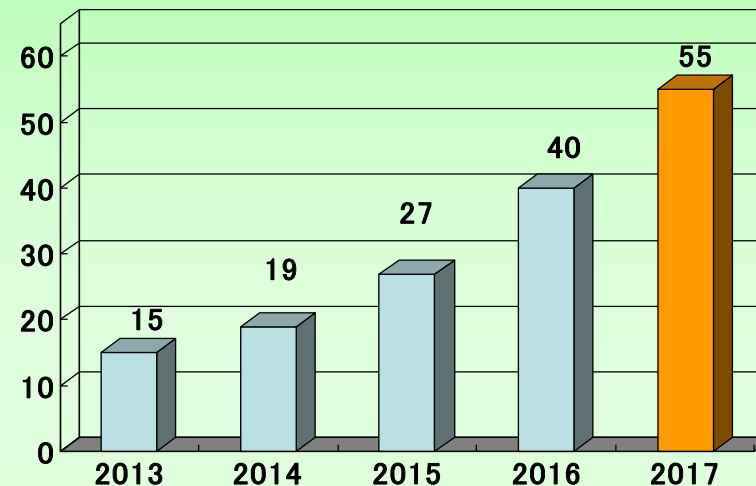
(単位: 億円)

◇ 目標 連結売上高



※(売電事業売上)

◇ 目標 連結経常利益



売上高経常利益率

1.5%

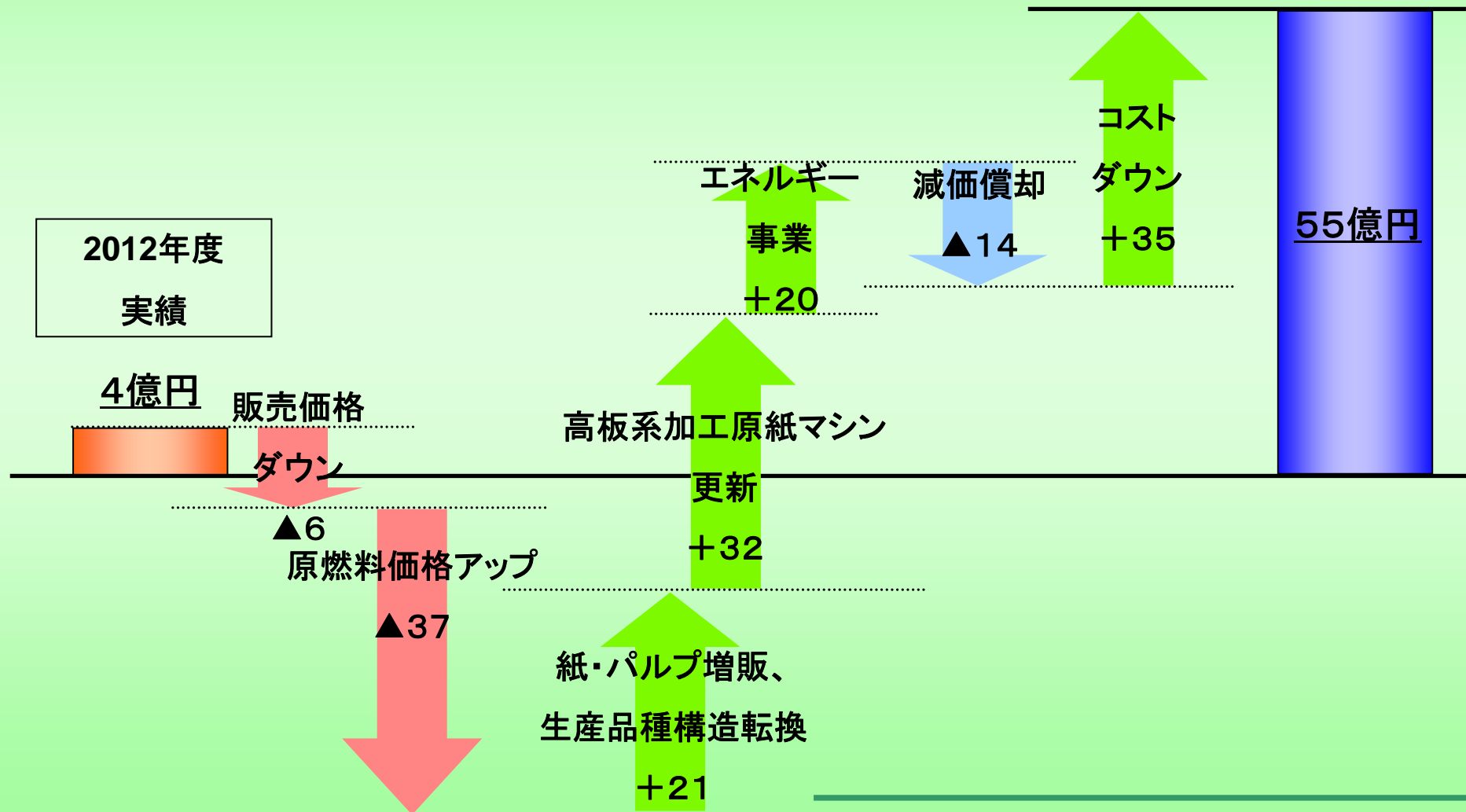
5.0%

- ◇ 2013年度 川内工場太陽光発電開始
- ◇ 2013~2017年度 生産品種構造変換
- ◇ 2015年度 高板系加工原紙マシン更新
- ◇ 2015年度 川内工場木質バイオマス発電事業開始

経常利益の積上げ目標

◇ 収益目標 2012年度実績対比

2017年度
目標



◎ 資金計画

(単位:百万円)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
設備投資額	12,520	22,210	17,134	8,874	4,500
新規借入金	13,400	17,700	20,300	6,700	4,500
有利子負債残高	56,436	72,037	81,386	81,717	76,029
(減価償却費)	(8,322)	(8,339)	(8,428)	(10,179)	(10,160)

* 2008年度
有利子負債残高
69,533

調達計画	
新規借入金	62,600
経常収支	53,286
(減価償却費)	(45,428)
預金取崩	5,312
合計	121,198

運用計画	
中長期戦略 設備投資額	43,873
設備維持更新 投資額	21,365
借入金返済	41,963
法人税等 支払	3,527
消費税額	7,098
配当金他	3,372
合計	121,198